

指導観、教材観、教材分析シート **記入例**

年 組 授業者

| | | | |
|-----------|-------------------------|-----|---------|
| 内容項目 | B 親切、思いやり | 主題名 | 親切にされると |
| 内容項目指導の観点 | 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 | | |

①授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。


授業者が考える **B 親切、思いやり** とは？※この1年間でこの学級の子どもたちに育てたいこと

相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為のよさを実感できるようにしたい。

②児童観 ※授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

各教科等、さまざまな場面でこの視点で **B 親切、思いやり** に関わる指導をする

| | |
|------------|--|
| 各教科で指導したこと | 生活科「あきをさがそう」の学習では、親切な行為のよさを実感できるようにするために友達の気持ちを考えて活動した具体的な姿を取り上げて称賛した。 学級活動の話し合い活動では、思いやりや親切な行為のよさを実感できるようにするために、相手の気持ちを考えて活動した姿を取り上げて価値付けた。また、当番活動も相手の気持ちを考えて活動するよさについて適宜指導している。 |
|------------|--|

その結果、児童は 

| | |
|-----|------------------------------------|
| よ さ | 多くの児童が思いやりや親切な行為のよさを感じられるようになってきた。 |
| 課 題 | 自分本位の考えで行動してしまうこともある。 |

実態から求められること(ねらい) = ここが授業の中心 育てたいのは、判断力、**心情**、実践意欲、態度

相手の立場や気持ちを考えて思いやりのある行動を受けたときのうれしさや喜びをより一層感じられるようにしたい。

③教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの

| | |
|-----------------------|--|
| 本時で扱う教材 | はしの上のおおかみ |
| 実態から教材のどこを中心に考えさせるのか。 | 児童をおおかみに自我関与させて、親切にされたときの気持ちを考えさせるために、くまに親切にされてくまの後ろ姿を見送っているときの気持ちを考えさせる。 実態からどのように教材を活用するか。 本時は、 補充 深化 統合 をねらう。 |

④教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える

| | |
|---------|-------------------------|
| 本時の学習課題 | 親切にされると、どんな気持ちになるのだろうか。 |
|---------|-------------------------|

価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことを理解すること。 **人間理解**：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解する。

| | |
|------------------------------------|---------------------|
| 中心発問 | 意図(他、人、価値理解) |
| くまのうしろすがたを見ながら、おおかみは、どんなことを考えていたか。 | 親切にされたときの気持ちを考えさせる。 |

| | |
|-------------------------------|---------------------|
| 発問 | 意図(他、人、価値理解) |
| 「もどれ もどれ」と言ったおおかみはどんな気持ちだったか。 | いじわるをたのしむ気持ちを考えさせる。 |

| | |
|--------------------------|-------------------|
| 発問 | 意図(他、人、価値理解) |
| くまのまねをしたおおかみはどんな気持ちだったか。 | 親切にした時の気持ちを考えさせる。 |

指導方法は **自我関与中心** **問題解決的** **体験的**

指導の工夫 役割演技、発問構成